

妊婦さんが
赤ちゃんのために接種する
RSウイルスワクチン
アブリスボ ハンドブック

生まれてくる 赤ちゃんのために

～アブリスボの接種を検討されている方へ～

自治医科大学附属さいたま医療センター 副センター長(企画経営・医療安全担当)
小児科・周産期科診療科長 教授 同 周産期母子医療センター長

細野 茂春 先生



目次

はじめに	3
RSウイルス感染症とは?	4
お母さんから赤ちゃんへ ー母子免疫とはー	6
妊婦さんに接種する RSウイルスワクチン「アブリスボ」	7
アブリスボ接種の対象と方法	8
アブリスボの接種前に 注意していただきたいこと	9
アブリスボの接種後に 注意していただきたいこと	10
副反応について	11
日常生活上の注意	12
気になることや困ったことがあったら	13
RSウイルス感染症の流行状況について	14
RSウイルス感染症を知るための Webサイトのご案内	15

はじめに

おなかの赤ちゃんのためにできること

妊婦さんは、感染症の予防、体重管理、食生活、適度な運動など、様々なことに気を付けて日々過ごされているかと思います。

RSウイルス感染症は、RSウイルスに感染することによって起こる呼吸器の感染症です。感染力が高く、新生児や乳幼児が感染すると、症状が重くなる可能性があります¹⁾。

アブリスボは、RSウイルス感染症を予防するワクチンです。妊婦さんに接種することでお母さんの体内で抗体が作られ、その抗体が胎盤を通じて赤ちゃんに移行します。赤ちゃんは生後数ヵ月の間、免疫が十分ではありませんが、アブリスボはその期間も含めてRSウイルスから赤ちゃんを守る効果が期待されます²⁾。

アブリスボの接種をお考えの方は、この冊子をご一読いただき、わからないことや不安に思うことがありましたら、医師や看護師にご相談ください。



1) 堤 裕幸: 臨床とウイルス 51(2): 77, 2023

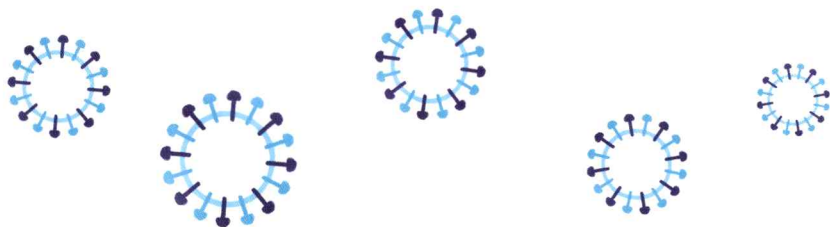
2) アブリスボ電子添文

RSウイルス感染症とは？

RSウイルス感染症は、RSウイルスに感染することによって起きる呼吸器の感染症です¹⁾。生まれたばかりの赤ちゃんから高齢者まで感染します。症状は軽い風邪から重い気管支炎や肺炎の症状まで様々です²⁾。

生まれてから6カ月以内の赤ちゃんの免疫は未成熟であり、RSウイルスに感染すると重症化することがあるため注意が必要です²⁾。

早く生まれた赤ちゃん(早産)、生後6カ月未満の赤ちゃん、心臓や肺に基礎疾患があったり、免疫不全やダウン症のお子さんでは、重症化する可能性があります²⁾。重症化した場合は、酸素吸入や点滴による補液などを行うために入院が必要です。



RSウイルス感染症の症状

- ・発熱
- ・鼻水
- ・強い咳
- ・ゼーゼー、ヒューヒューといった喘鳴(ぜんめい)
- ・呼吸困難



RSウイルスに感染すると、4～5日の潜伏期間(症状のない期間)の後、発熱、鼻水などの上気道炎の症状がみられる場合があります¹⁾。約70%の乳幼児では、上気道炎の症状が数日続いた後、快方に向かうと報告されています²⁾。30%の乳幼児ではその後、細気管支炎や肺炎などの下気道炎を引き起こして重症化し、強い咳やゼーゼー、ヒューヒューといった喘鳴(ぜんめい)、呼吸困難などの症状がみられ、ミルクの飲みが悪くなる場合があります¹⁾。

1) 堤裕幸: ウイルス 55(1): 77, 2005

2) 堤裕幸 他: 小児内科 49(11): 1625, 2017

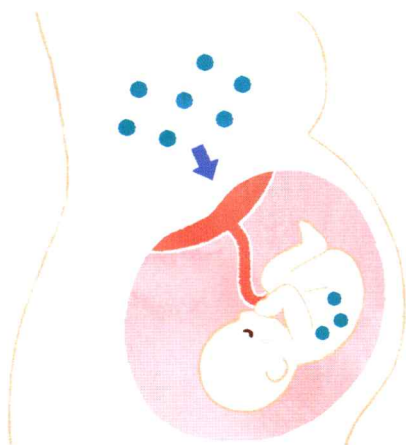
お母さんから赤ちゃんへ

—母子免疫とは—

赤ちゃんは、生後数カ月の間は、体内で十分な量の抗体（細菌やウイルスを除こうとするもの）をつくることができず、免疫機能が未熟であることが知られています¹⁾。

一方で、赤ちゃんが感染症にかかりにくいのは、胎盤やへその緒を通じて抗体の一部を受け取って生まれてくるためです²⁾。このことを「母子免疫」といい、生後数カ月の間、赤ちゃんを感染から守る役割を担っています^{3,4)}。

母子免疫（イメージ図）⁴⁾



妊婦さんに接種する RSウイルスワクチン「アブリスボ」

生後数カ月の赤ちゃんの免疫機能は発達していないため、ワクチンを直接接種しても病原体に対する抗体が作られにくいとされています^{3,5)}。現在、RSウイルスワクチンで赤ちゃんに直接接種するタイプのものはありません。(2024年4月時点)

そこで、前のページで説明した母子免疫の仕組みを利用し、赤ちゃんのRSウイルス感染症を防ごうというワクチンが考え出されました。アブリスボは、妊娠中のお母さんに接種するRSウイルスワクチンであり、赤ちゃんのRSウイルス感染症に対する予防効果が期待されます。

- 1) 西山幸廣: 実験医学 26 (18): 2884, 2005
- 2) Faucette A et al.: Hum C Vaccin Immunother 11 (11): 2549, 2015
- 3) 国立感染症研究所: 病原微生物検出情報 35 (6), 2014
- 4) Cinicola B et al.: Front Pediatr 9: 1, 2021より改変
- 5) 山本初実 他: 国立医療学会誌 57 (7): 456, 2003

アブリスボ接種の対象と方法

- 接種対象

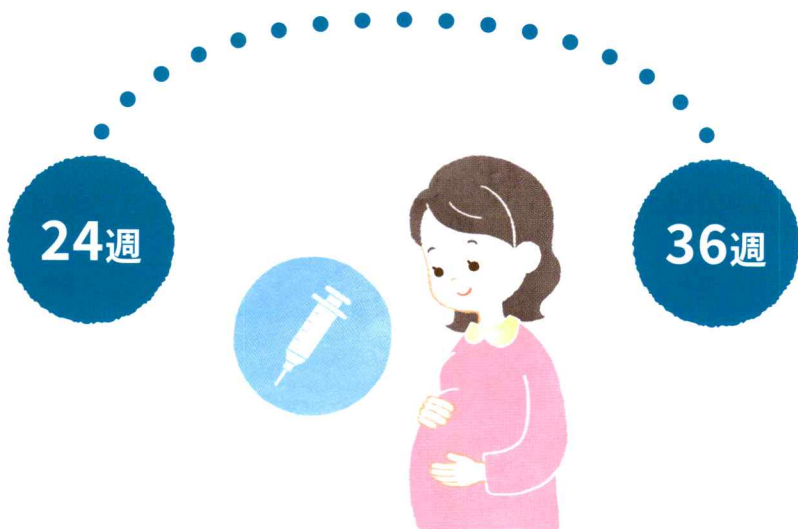
妊娠24週から36週の妊婦さん

- 接種方法

0.5mLのワクチンを筋肉内に接種します。

※注射や採血によって具合が悪くなったり気を失ったことがある方は、注射前に必ず医師や看護師に伝えてください。

※他のワクチンとの同時接種を希望する場合は、医師にご相談ください。



アブリスボの接種前に 注意していただきたいこと

● 下記に該当する方は接種ができません

- 発熱している(37.5℃以上)
- 重篤な急性疾患にかかっている
- ワクチンの成分である不活化したウイルスのタンパクに対し重度の過敏症の既往歴がある
- その他、かかりつけの医師に予防接種を受けない方がよいといわれた
など

● 下記に該当する方は医師や看護師にご相談ください

- 血小板が少ない、あるいは出血しやすく治療を受けている
- このワクチンの成分である不活化したウイルスのタンパクに対してアレルギーがある、もしくは前回のワクチン接種でアレルギー様症状の副反応がみられた
- 過去に免疫状態の異常を指摘されたことがある、もしくは近親者に先天性免疫不全の方がいる
- 心臓や肝臓、腎臓、血液の異常を指摘されたことがある
- 授乳中
など



アブリスボの接種後に 注意していただきたいこと

- 接種後一定時間は、注意深い観察が必要です。病院のイスに座るなどして様子を見てください。
- 接種した当日は安静に過ごしてください。
- 接種した部位を清潔に保ちましょう。また、接種した当日に入浴しても問題ありませんが、体を洗う時に接種部位をこすらないようにしてください。
- 接種部位の変化、接種後の体調の変化に注意してください。
(接種部位の異常や体調の変化、高熱、けいれんなどの異常な症状がみられる場合には、すみやかに医師の診察を受けてください)



副反応について

副反応は、ワクチン接種直後から数時間後、また数日後に発生する場合があります。

● 起こる可能性のある副反応

- 注射部位の腫れ、赤み、痛み、倦怠感
- 頭痛
- 発熱

(より重篤な副反応)

- 血圧の低下
- 吐き気
- 失神

など

接種後に気になる症状等がある場合には、医師や看護師にご相談ください。



日常生活上の注意

- RSウイルス感染症は、感染している人の咳やくしゃみ、会話している時に飛び散るしぶきを吸い込んだり、ウイルスがついているものを触ったりすることで感染が広がります¹⁾。
- 基本的な感染対策は、換気、手洗いや手指消毒、マスクの着用です²⁾。



気になることや困ったことがあったら

気になることがありましたら、医師や看護師にご相談ください。

- 体調の変化等で他の医療機関を受診される場合は、母子健康手帳をお持ちいただくとともに、アブリスポを接種したことをお伝えください。
- 他の医療機関を受診された場合、アブリスポを接種した医療機関にもお知らせください。



アブリスポの副反応により健康被害が生じた方のために医薬品副作用被害救済制度があります。

詳しくは以下のサイトをご参照ください。(2024年2月時点)

https://www.pmda.go.jp/kenkouhigai_camp/

- 1) 厚生労働省: RSウイルス感染症Q&A(令和6年1月15日一部改訂)
(https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_qa.html)
(2024年2月時点)
- 2) 厚生労働省: 感染拡大防止へのご協力をお願いいたします!
(<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kansentaisaku.html>) (2024年2月時点)

RSウイルス感染症の 流行状況について

RSウイルス感染症は1年を通じて感染がみられますが、流行する時期があります。RSウイルス感染症にかかると重症化する場合がありますため、その流行を把握することが重要です¹⁾。

本邦では、全国約3,000の医療機関から各地域の保健所へ、RSウイルス感染症と診断された患者数が週単位で報告されており、医療機関からの報告をもとにした全国レベルの集計結果を、国立感染症研究所のHPで確認することができます。「過去10年間との比較グラフ(週報)」のページ(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/10/weeklygraph.html>)で、「RSウイルス感染症 RSV Infection」を選択すると、全国報告数の集計結果をご覧いただけます。

また、流行の状況は地域によって異なりますので、お住まいの地域の自治体のHPなどでご確認ください。

RSウイルス感染症を知るための Webサイトのご案内

以下のサイトでもRSウイルス感染症についての情報を閲覧することができます。

- 厚生労働省RSウイルス感染症Q&A

(https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_qa.html)

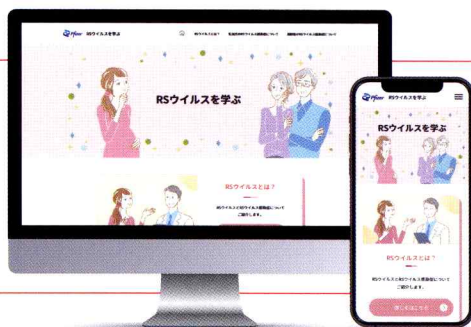
- 国立成育医療センター RSウイルス感染症にご注意ください!!

(<https://www.ncchd.go.jp/news/2022/200727.html>)

※ 2024年2月時点



また、RSウイルスや
RSウイルス感染症に
ついて学べるWebサイトも
ご用意しております。



RSウイルス感染症の概要や、症状、治療、日常における注意点などについて解説しています。ぜひご覧ください。

URL <https://www.rs-virus.jp>

